

少人数学級の効果（現場からの意見）

秋田県教育委員会

<p>授業構成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個の学習状況を把握しやすくなるとともに、それに応じた教材の精選や開発に取り組みやすくなる。 ・ ねらい達成のための学習活動や言語活動をダイナミックに構想できる。 ・ 4人グループを3人グループにしたり、観察、実験装置や教材の個別化を図ったりすることを通して思考したり理解を深めたりすることができる。 ・ 器楽演奏において多様な楽器の演奏機会が確保できる。 ・ 資料から課題を発見し、資料で解決するのが社会科の授業構成の基本である。少人数ならば、資料を読み取らせる支援や指導が手厚くできるとともに、資料から気がついたこと、分かったことを基に解決する活動を少人数化して、思考・判断、表現する活動が充実する。
<p>子どもたちの活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペア学習やグループ学習などの形態を作る際、意図的な組み合わせに配慮でき、子どもたちの学び合いがより効果的なものになる。 ・ 子ども一人一人やグループに対する支援や見取りに当たれる時間が増える分、子どもを主体にした活動を多く設定できる。 ・ 一人一人の達成感の見取りが少人数ほどきめ細やかになる。特に小学校における鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどの楽器におけるスキル面でのつまずき、子どもの気付きに対応できる。 ・ 一人一人に目が届きやすくなることから器械運動や柔道などの実技指導の際、これまで以上に安全面に配慮できる。 ・ 人数が減った分、今まで以上に運動量を確保することができる。（特にサッカー、バスケットボール、バレーボールなどの集団での活動） ・ 子どもたちが頭と頭を突き合わせて資料を読み取り、課題を発見したり、解決したりする活動が充実する。自ら意見を述べる機会が増え、意欲的に問題解決学習に取り組むことができる。
<p>教材研究・授業準備について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な教材を選び製作させることがしやすくなる。 ・ クラス全体の中で一人の子どもが表現できる時間と機会が増えるため、考えを確かめたり、深めたり、広げたりする機会が増える。
<p>安全面について（特に実技教科）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校体育「武道」が必修となり秋田県ではほとんどの学校が柔道を実施する。今までも柔道の授業を行ってきたが、武道場がある学校でも安全面（教師の目が届く、広めの場の設定、人の密度）を考えると40名では多いと感じていた。 ・ 解説の例示にある、投げ技の連絡「大内刈り→大外刈り」などは練習に十分なスペースを確保する必要がある。多様な子どもたちの活動や運動量の確保を考えると30名程度が望ましいと思う。
<p>学び合いについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス全体の中で一人の子どもが表現できる時間と機会が増えるため、考えを確かめたり、深めたり、広げたりする機会が増える。
<p>教師の支援について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1クラスあたりのグループ数が減るので、机間指導を通して教師は子どもの学習状況を把握しやすくなる。また声をかける機会が増えるので子どもに対する支援が充実する。 ・ 個別指導の機会が増える。

※指導主事らが学校訪問により聞き取ったものを、県教委事務局がまとめたもの